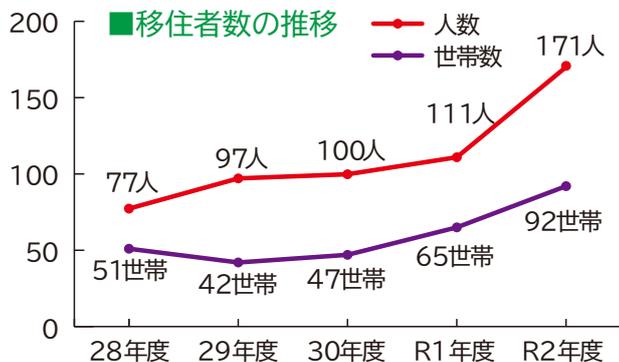


移住者に人気のまち飛騨市

～人気の秘密、深掘りします～



■移住元の内訳（単位：人）

	岐阜県	関東	関西	愛知県	三重県	北陸	その他	不明	計
R1	14	46	5	16	0	1	24	5	111
R2	85	37	9	26	0	9	5	0	171
計	99	83	14	42	0	10	29	5	282

■移住者の増加は地域を元気に！

飛騨市への移住者は近年、増加傾向にあります。

移住される人が増えることは、受け入れ地域にとってさまざまなメリットがあります。

これまで考えられてきた「人口減少や少子化の抑制」という面だけでなく、新たな人々が地域に入り、異なる価値観や新しいアイデアを提供し、一緒に汗をかいてくれることで、地域を活気づかせる効果が期待されます。

また、外からの視点でこの地域を高く評価してくれることは、「多くの方が移住したいと思ってくれるような、素晴らしい地域なのだ」と、私たち市民に気づかせてくれ、誇りをもつことにもつながっていくのではないのでしょうか。

そうした観点から市では、移住を検討されてみえる方に魅力を感じていただけるよう、さまざまな施策を講じ、イメージアップを図っています。

■飛騨市が全国で住みたいまち上位に！

地方への移住を考えている人が主な購買層である宝島社『田舎暮らしの本』2月号、「2022年版住みたい田舎ベストランキング」において、飛騨市が上位にランクインしました。このラン



キングは、全国の市町村を対象に宝島社が独自のアンケートを実施した結果により決定されました。市の子育てや医療・教育などのさまざまな支援を評価いただいたものです。

「人口1万人以上3万人未満のまち」の部（225自治体）では、「若者世代・単身者が住みたいまち」と「子育て世代が住みたいまち」の2項目で全国6位、「シニア世代が住みたいまち」で全国5位と、幅広い年齢層の支持を得て、高く評価されました。

また、「東海エリア」の部（55自治体）では、上記の3項目すべてで東海3位の結果となりました。

今後もこうした客観的な評価を積み重ねつつ、移住を希望される方に寄り添った施策を検討していきます。

充実した支援策

米10俵プロジェクト

住宅を取得・購入した移住者にお米1俵（60kg）を10年間プレゼントする事業を行っています。このような事業は全国的にも珍しく、飛騨市の自慢ともいえる人々の温かい気質を全国に広くPRし、飛騨市に対する興味関心を高めることを狙っています。



充実した支援策

移住コンシェルジュ

地域の7人の方が移住コンシェルジュとして移住検討者や移住者へのきめ細やかな相談や地域の案内サポートをしています。



牛丸 政司さん 大橋 明日香さん
加藤 時夫さん 小枝 恵一さん 森下 道子さん 山崎 清正さん 吉田 将さん



河合町稲越に移住 井関さんご一家

移住者に
聞いた
飛騨市の
魅力

井関貴文さん
……大阪府寝屋川市出身
井関美穂さん
……愛知県名古屋市出身
長男・逸心君
長女・ちよちゃん



手作りされたステキなキッチンカウンター

人と水に誘われて決めた移住

「元々ものづくりが好きだった」という貴文さんは高校卒業後、木工の勉強のため高山市へ。その後、木工会社に勤務しましたが、9年前にアルバイトで農業を手伝った時、トマトの生長を見たり、収穫・片付け作業などの一連の過程を面白く感じて新規就農。今年で7年目を迎えました。

■移住の決めては「人」と「水」

飛騨市への移住を決めたのは、有機農業に取り組む飛騨市在住の仲間と知り合い、仲良くなったのが理由のひとつ。また、住居を探していたところ、たまたま見つかった物件が、今住んでいる河合町稲越の物件だったこともありました。

物件を決めたポイントは「水が良かったこと」。農業や暮らしにおいて、水の大切さを第一に考えておられました。広葉樹の多い森からもたらされる水は

水量も豊富で、上流に人家がないこの地は受ける影響も少ないこと、日当たりがよいことなどの条件にぴったりで、昨年4月に引っ越してこられました。

■自然の中で安心して子育てできそう

「子どもを外で自由に遊ばせたかった」とおっしゃるのは妻の美穂さん。以前住んでいた家の近くは、道路に車の往来が多く、なかなか自由に遊ばせられる環境にはなかったそうです。

「今は周囲が自然豊かで、安心して子どもを遊ばせられます」と喜んでおられます。「アカバロや虫など生き物をつかまえて遊んだり、かまくらを作ったり、子どもにも良い経験になっているのでは」と目を細めておられました。美しい紅葉や雪景色を間近に見られるのもお気に入りだそうです。

■コロナ後の交流を期待

「周囲の方々が良い人で、ありがたい。

子どもと一緒に移住してきたことも喜んでくださいます」と貴文さん。今は雪で閉ざされ、またコロナ禍で祭りや寄り合いがなく、近所の方と交流する機会が少ないのが残念とのこと。それでも、市長や市職員との距離感が近いのも魅力の一つと話してみえました。

■循環型の暮らしを实践したい

「ここは集落の奥にあたるので、ここに人が来るようになれば、地域全体が活気づくようになるのでは」。ご夫妻は、水や太陽、自然エネルギー、木や土など森の地域資源を有効に活用、循環させる試みをしたいと考えておられます。

循環型の農業、暮らしを实践し、その取り組みを見学してもらったり、農業体験やワークショップを行う目標を持ってみえます。「今年はピザ窯をつくり、自分で収穫した作物をトッピングしたピザを焼くワークショップを始めたい」と貴文さん。「これから良い意味で、この土地に良い根を張っていきたい」と話してみえました。

充実した
支援策

移住奨励金

飛騨市での生活に早くなじんでもらえるよう、また市内のお店を知ってもらえるように、地域商品券や電子地域通貨を移住奨励金として単身世帯には10万円、2人以上の世帯には15万円相当分をお渡しする施策を行っています。



充実した
支援策

飛騨市住むとこネット

移住を検討される上でもっとも重要視される「住まい」について、賃貸・売買の空き家物件情報をオンライン上で紹介するサイトです。飛騨市版「空き家バンク」として、市内の宅地建物取引業者が仲介し、買い手と売り手、貸し手と借り手をつなぐお手伝いをするものです。





古川町上町に移住

伊東さんご夫妻

移住者に聞いた
飛騨市の魅力

伊東大地さん
……大分県大分市出身
伊東絵美さん
……愛知県名古屋市出身



よく立ち寄るという地場産市場（古川町朝開町）

市民とのつながりに安心感

■夫の就職を機に移住

夫の大地さんは、インターネットを通じて飛騨地域の特産品の販売や、販促支援などを行う株式会社ヒダカラ（古川町）に勤務。同社が楽天市場上で出店している「ヒダカラ商店」の情報更新や問い合わせへの対応などを担当してみえます。販売だけでなく、さまざまなお店などを回り、新たな商材の情報収集も行うそうです。

妻の絵美さんは、地域産品・伝統工芸などを用いたオリジナルの手芸小物などのブランド「Cohana（コハナ）」のウェブサイトの運営やメルマガの発行などに携わっておられます。本社は東京にあり、絵美さんは古川町のコワーキングスペースを借り、リモートで仕事をしておられます。

ご夫妻は、ともに勤務していた大垣市にある柘の製造・販売会社で知り合

い、ご結婚。大地さんが昨年9月、ヒダカラへ就職したことをきっかけに移住してこられました。

■身近な風景や新鮮野菜に満足

車がないため職場に近いことや、まずは飛騨での暮らしに慣れるため、アパートを借りられたそうです。「毎朝歩いて職場へ向かいますが、山に囲まれて景色が良く、リラックスできます。夏は緑、秋は紅葉、冬にふわふわの雪を踏みしめる感触。これがおすすめ『スポット』です」と笑顔で語る大地さん。

絵美さんは「地場産市場へよく行きます。野菜が新鮮で、食べたことのない野菜が売っていたりして、いろいろ挑戦しています。食に関しては最高です」と声を弾ませてみえました。

■補助だけでなく人のつながりが大事

市の移住者支援施策については、さるぼぼコインの支給、ペーパーライ

バーの講習費用や除雪道具購入の補助が役立ったそうです。

「飛騨市ファンクラブやヒダスケなど、いろいろな人と関われる仕組みを自治体がやっているのがすごいと思います。知らない土地へ移住する中で、地域のことを知ることにもとてもありがたい。知りたいことを気軽に教えてもらえたりして安心感があります」と絵美さん。大地さんも「何かしら飛騨の人とつながりがあったので、移住においても不安が少なかったです。横のつながりがあったって紹介してもらえるのが良かったです」と話してみえました。

■目標を持って充実した暮らしを

大地さんは「今は仕事で、飛騨地域の特産品を扱っていますが、今後は飛騨市の新たなイメージともなる商品の開発や掘り起こしに挑戦したいです」、絵美さんは「仕事で英語を使っていたので、英語をしゃべりたい。気軽に集って英会話を楽しむ会などを開けたら」と胸をふくらませています。

充実した
支援策

移住支援サイト・オンライン相談

市内への移住を検討されてみえる方に、市の魅力や暮らしについて気軽に知ってもらえるサイト「飛騨市移住支援サイト」を立ち上げています。移住された方の生の声や、各種支援情報などを掲載しています。また、移住希望者の相談に対し、オンライン会議システムを用いて個別に対応する「オンライン移住相談」も行っています。



市民の
皆さんへ
お願い

生活習慣や文化の違う地域から移住された方は、飛騨での暮らしにとまどうことばかりです。

ごみの分別ひとつとっても各市町村で異なる場合があります。移住者がこれまでの習慣で行ってきた行動が、ひょっとすると地元の方にとっては違和感を感じたりすることもあるかもしれません。その土地土地における独自の習慣や風土を単に知らないだけという場合もあります。

地域に根付こうと努力している移住者がほとんどです。声をかけ、暮らしについて寄り添っていただき、温かく長い目で見守っていただくと幸いです。

問 地域振興課 ☎ 0577-62-8904